

タカラコラボラボ 第3回・第1期第3回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和6年(2024年)1月26日(金) 18:30~20:00
開催場所	2-4・2-5会議室
次 第	1 開会 2 アイスブレイク 3 議事 (1) 本会議の愛称について (2) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施 について 4 その他 5 閉会
出席委員	田中会長、加藤委員、遠座委員、永崎委員、松村委員、上田委員、前菌委員、岡田委員、橋之爪委員、
開催形態	公開(傍聴人0名)

1 開会

事務局から、本日の出席者は9名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は0名であることを報告した。

また、会長が途中出席することとなったため、規則第4条第3項の規定に基づき、加藤委員が会長の到着まで職務を代理することとなった。

2 アイスブレイク

2グループに分かれてアイスブレイク(去年あった嬉しい出来事教えてください!)を行った。(田中会長が到着したため、加藤委員の会長代理を終了)

3 議事

(1) 本会議の愛称 の表記・ロゴマークについて

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見出しを行った。

ア 表記について考えて、ふと思ったので話が戻ってしまうため、それはなしというのであれば全然いいが、宝塚のタカラまで入れてカタカナで「タカラコラボラボ」と書いたらかわいいなと思った。「赤坂サカス」みたいに声に出したくなるかなど。意味がもう少し伝わりやすくなるかなどと思う。

イ ア委員の意見を採用したいと思うが、採用の仕方として事務局案4「TAKORABO」の読み方的に「タカラコラボラボ」をフリガナ打つみたいなのはどうか。

「TAKORABO」だけだと私も意味がわからないと思う。補足的につけるのはどうか。

ウ 「TAKORABO」はKでなくC(Collaboration)、RでなくL(Laboratory)。最後

の0はない方がかわいいと思う。

- エ (会長)「TACOLAB」のフリガナとして「タカラコラボラボ」とすればわかりやすいのではないかという意見だった。他はいかがか。応援メッセージでもいい。
- オ 直感的にいいと思った。改めて今日、資料で表記を見たときに、どうしても8本足のタコに引きずられてしまった。宝塚のタで止まらずタコまでどうしても目が行ってしまって、資料の下にロゴマーク案でまちキョンがいるが、まちキョンとも合わないなと悩みながら資料を見ていた。今出たアイデアでいくと8本足のタコのイメージからは遠のくかなと思った。
- カ (会長)わかりやすく表記することが基本なので、こういった形でどうか。私も「タコ」というのが気になっていた。宝塚のタということを強調する方が良いと思っていた。こちらの案でいかがか。
- キ この資料を見たときに、事務局案5「TAKOLabo」に小文字が入っている。私が思ったのは、TAのAとCollaborationのOを小文字にしたら、ヨコ文字として斜体にしたら綺麗になるかなと思っていた(「TaCoLAB」)。カタカナでフリガナを付けるのであれば全て大文字でもいいと思う。大文字と小文字にすることで、Collaborationにしても、Laboratoryにしても説明がしやすいと思う。今の資料は活字でタテのフォントで書いてあるが、斜体にしたらちょっと変わるかなと思った(「TaCoLAB」)。
- ク 言い始めたら「タコラボ、タコラボ」とみんな言うだろう。「そもそもこれは、タカラ、コラボ、ラボなんですよ」という物語ができる。
- ケ 全部大文字の案でも結構。フリガナをふるのであれば。
- コ (会長)基本的にはフリガナを付けていくということと、あとは全部大文字でいくか、小文字も入れるかということだと思うがどうか。
- サ 事務局案2「タ・コラボ」について、タにあえてどんな意味を持たせるかということ調べてみた。タというのは「多」からきている。もう一つ「タ(ゆう)」というのものもある。多いという意味を持たせる方がいいのかなと持っていたが、今日は全然違う方向に話が進んだ。今言われた意見の中では、最近色々なパスワードでも大文字・小文字を入れてくださいというのがあるので「TaCoLAB」がいいかなと思った。
- シ (会長)話としては、「TaCoLAB」に「タカラコラボラボ」のフリガナを付けるというので良いか。あとはロゴマークについて事務局から説明を。
ロゴマークについて事務局より資料に基づき説明を行い、意見出しを行った。
- ス 3つの事務局案あるいは、ほかの案が思いつけば何かご意見を伺いたい。「いいね」は、著作権は大丈夫か。
- セ (事務局)確認する。「いいね」は日本語なので大丈夫かなと思っている。まちキョンは市が作っているので間違いなく大丈夫。指のマークなどは完全にフリー素材なのかはおさえる。「いいね」も確認する。
- ソ これは看板でいくか。まちキョンの手がいいね(👍)はできないのか。

- タ (事務局) 可能である。今のところ特に制限はない。新しくロゴマークを作るのでできるかも前提で意見してもらえれば。
- チ 右手の方がいいのかな。親指の向きの。
- ツ (事務局) 既存のデザインで左手を挙げているのがあったので使用したが、挙げている手と指の向きは一致するようにしたい。
- テ ソ委員に同意見。旗を持っていたりプラカードをわざわざ持っていたりするのとは何か不自然なので直接前にいいね(👍)と出している方が自然かなと思う。
- ト (会長) こういう意見が出たが、これは絵を描くことになるのか。
- ナ (事務局) 絵を描くとなると有料の可能性はある。ある程度のイメージを言っていたら、できればそこから成案に持っていきたいと思っている。今日、成案にならなくてもいい。今日いただいた意見として、旗や看板ではなく直接手をいいね(👍)とするとのことだが、「いいね」という言葉を日本語や英語(Good)で入れるのか、手のマークだけにするのかというのはいかがでしょうか。
- ニ この際、これ(👍)を。万国共通だから。
- ヌ (事務局) 少なくとも日本人だったら意味がわかるのであれば、言葉はなくてもいい。
- ネ むしろ日本がこれ(👍)を起用したのが遅い。海外は全部これ(👍)。
- ノ まちキョンの手の出来具合次第。どんな感じで出来るか。
- ハ (事務局) わかるようなデザインで。右手の方がいいか。
- ヒ いいね(👍)ってさせるのなら、原寸大だと何をしているのか見えない。手のところだけ拡大させる、前に出ているのがいいのでは。ちょっと誇張した感じの方がいいのかな。
- フ (会長) 今日決めるというわけではない。こういう意見があったというところでもいい。
- ヘ (事務局) 宝塚 NPO センターに相談して、そういう絵で作れるかどうかも含めて確認したいと思う。

(2) 市民への協働に関する意識啓発のイベント実施 について

事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- ア (会長) ターゲットから話していきたいがどうか。前回、60代や子育て世代という話があった。いかがか。
- イ 今、市制70周年補助金の募集をしていると思うが、そこに新しい方が応募してきているのであれば、イベントをしたい人たちだと思うのでそういったところに声を掛ければターゲットとしてぴったりだなと思う。
- ウ (事務局) この意識啓発をやっていくというところで、自然と集まっていたたくさんの方多くいたらいいのだが、実際に何らかの活動をされている、関心があるというのが今回の70周年補助金の分でわかると思うので、その方に色々な周知をしていくというのは確かに有効な方法だと思う。世代も色々な方がいらっ

しゃるし地域活動への関心も多分ある。そういった方たちに声を掛けていくことは可能。

エ (会長) 応募はいつか。

オ (事務局) 市制 70 周年の分については、一旦 2 月末で締切と考えていて、その方たちに 4 月から 1 年間かけて何かしらのまちづくりに関する事業をやっただけという補助金を今募集している。その方たちは比較的関心が高い層であろうと思う。自治会、まちづくり協議会だけの申し込みではなく、色々なグループから申し込みがあるだろうなと思っているので、その方たち向けにこういうことがあるよとご案内して集まっていただくことは十分あり得るかなと思う。

カ (会長) タイミング的にも良いかなと思う。

キ 今のイ委員の意見を受けてだが、このターゲットというのは啓発イベントに来られる参加者みたいな感じかなと思うが、例えば市制 70 周年補助金に応募されている方が参加者としてではなく関わる側 (イベントの運営側、出店など) になってくれればその分の関わりしろが増えていくのかなと思う。参加者のターゲットというよりはこちら側がどんな人たちとやるかみたいなかたちで、参加者がもしかしたらターゲットとして決まってしまうかもしれないし、反対にターゲットを決めないで相乗効果的に広がっていくのを期待するというふうに考えてみるのもありかなと思った。例えば、何とかフェスとかって出店したいという気持ちをイベントに行き行って持つ人もいるし、そっちの方が意識啓発としてはすごく効果的だと思うので、関わりたいと思っていることを共有 (たくさんの方が楽しんでそこに関わっている姿を見せる) するイメージ。

ク (会長) 参加者を決めないでというのがすごく偶発性がある面白いなと感じた。こちらの方で発信して行って「よし、このイベントに関わってみよう」というような人が集まってきて、一緒にやることで何か全然思いもよらなかった層がやってきて参加してくれるというイメージ。結構ね、こちらの方で色々企画して活動している中でも、偶発的に思いもよらぬ人たちがやって来るというのは結構あって、それが反対に良かったりする。かっちりと決めてしまわないでという話もある。行政としてはかっちりと決めないといけないのか。

ケ (事務局) この推進会議というのが、今までもほとんどの内容が自由に決められるということに特徴がある会議だと思っているので、この啓発のイベントについても市だけでなく、皆さんで作っていただくというところを思っている。やれるかやれないか、そこは方向が決まったら次の実施内容というところで揉んでいったらいい。どういったところでやっただけかについては自由にできると思っている。予算がなかなか潤沢にはないので、その前提にはなってくるが、こんなことやりたいよね、じゃあ自分たちでどんなことができるかなというところで内容を考えていっていただいて、市も一緒に入らしてもらって、プレイヤーづくりという視点の中でどういうイベントができるのか、講演会がい

いのか何か違う方式がいいのか、市だけで考えるとどうしても既存の枠が超えられないと職員は思っている、その枠を超えるためにも皆さんにご意見をもらって、やれる範囲のことでどんどん新しいこともしたいと思っているし、そうでないとなかなかプレイヤーを見つけましょうというのは簡単ではないと思っているので、皆さんにかなりご負担というかある程度のことをやっていただくということになるが、その中で色々考えていただきたいなと思っている。

コ (会長) 2 月末締め切りの補助金に申請が出てくる。その頃ぐらいに、こういうことをやろうと思っているが一緒にやる人いませんかという働きかけをしたらいいということか。

サ 市制 70 周年補助金が 2 月末まで申請できるが、その中で例えばこういうことをやろうというアイデアが出てきた時に、その中からこの人たち誘ってみようかという 1 つの参加者の材料探しとして使ったらいいと思う。私はこの中で、ターゲットというよりもこれを継続的にやっていくために、一番気付いてほしいのは行政に任せてもできないよ、自分たちでなんとかしないとイケないよということ。その表れが、例えば市制 70 周年補助金においてこんなことやりたいなという 1 つのアイデア。もっと真剣に考えないとイケないのは、お金もない人材もない状況の中で、じゃあ行政が全部なくなったらどうするのか。そこに危機感を感じる。ワークショップ形式の中で参加してもらって、「行政が何もしなくなったらどうするのか」というテーマで話し合ってもらい、自分たちで動かないとイケないねとなることを期待する。自分たちが全部しなくても、少なくとも、こういうアイデアについて行政と一緒にやらないとイケないよねという意識を持っていくような形のものできたら。だからターゲットは 60 代でもかまわないし勤労世代でもかまわない。そこに参加者として 2 月末までに申請があった市制 70 周年記念イベントの中で、こういうアイデアがあるからこの人たち誘ってみようかというのもありかなと思う。

シ (会長) こちら側がある程度、申請者一覧の中から選ばせていただくということか。

ス 一番の目的というのは、今までみたいに行政任せあるいは他人任せでは世の中うまくいかなくなるよねというところに気付いてほしい。だから、がっちり企画を組むのではなくて、目標に向かって人を集めた中で、ワークショップで自由にディスカッションしてもらおう。その参加者のメンバーに市制 70 周年補助金に申請をした人を入れたり、もっと違うところで参加者を募集したりする。今、官民連携の取組を宝塚駅前で行おうとしている。あれも、行政が主導というよりも地域の人たちが、この地域をどういう風にしていこうかというアイデアを出そうとしている。それに対して、やるべき時に行政と一緒にやるのか、あるいは民間だけでやるのかというのはある。色々な人が何かしないとイケないなということを思ってもらおうというやり方がいいのかなと思う。それが協働の推進になるというのが私の考え。

- セ (会長) ワークショップ形式というのは外せないということですね。いくつかワークショップ班があって、そこにファシリテーションみたいな人が必要。誰がすることになるのか。皆でしてくれるのか。凄い。私も入れて少なくとも10人はできる。そういう形でそこに入ってもらって、市制70周年補助金に申請された方が参加し話し合いに入ってもらいイメージということか。
- ソ 2月の末に締め切って、3月の初めに選考する。そこで企画が通った人は優先的に案内するというかたち。
- タ (事務局) 70周年の参加された方関心の高い方、なんらかのまちづくりっていうかそういう事に関心の高い方というところの一定の層があると思っている。ただその方たちはあくまで補助金の応募を頂いているのでこちらから必ず来てくださいというスタンスではないと思っている。こういう事をやるので是非どうですか？とお声かけをして賛同してもらえれば参加してもらったらいし、こちらの方に入りたいということならそういう事でいいよっていうところを言えるのかなと思っているので、市の方からこういう事をやるので是非何か気になったら言ってもらえませんか？そしたらいつでも私たちウエルカムなんでっていうような情報の伝え方なのかなと思っている。その方たちの情報とかも個人情報の兼ね合いもあるので、ありきで使うのはよくないが、こういう事ありますよっていう宣伝をしてできたら来てくれたらいいよねってぐらいだと思う。できれば、その方たちに声をかけたらひとつ参加を促しやすいよねというレベルで70周年補助金の方はイメージして頂けたらと思う。
- チ (会長) 70周年補助金を申請された方へ声かけて誰も来ないっていう事ありえるか？
- ツ (事務局) 可能性の問題なので、どういったワークショップの話し合いのテーマにするかによってくるのかなとは思っている。この中の皆さんも70周年の応募をしようという風に考えられていると思う。ほぼ全員応募頂く方向になっているかなとは思っている。皆さんの仲間の中にも「それやったら行ってみようかな」と思って頂いたら誰かしらは来てくれるかもしれない。今10団体ぐらいの応募につながりそうな問い合わせがあって、やっぱり何らかの前向きな方向を向いておられる方がいるので誰も集まらないっていうことは恐らくない。ただ気軽に参加しようという人は多分いると思うが、スタッフ役を期待するのは、やめておいた方がいいかなと思う。運営をやって、ファシリテーターまでやるっていうのはあくまでこのメンバーでやれる範囲でやって、追加があればいいねぐらいのスタンスの方がいいかなと思う。
- テ 70周年補助金に応募する方は、それだけじゃなくてももうすでに色々な活動をやられている方もおられるわけで、そういう方はなんらかのニーズがあってやろうとしている。そういったものをできるだけワークショップの中で聞いて他の人達も「そうかそういうことをしなくて」「そういう危機があるからやっているんだ」という危機感をあおりながら自分もやらなきゃいけないなという気持

ちになってくれたらいいなと思っている。

- ト (事務局) この 70 周年の分については、採択されたらその団体とか最初からホームページで公開しますねとか公表しますねっていう募集要項にしているので、どんな団体で何をやるのかっていうのは全員が見れる状況になる。その方たちの参加のイメージ、私が思ったのは例えばワークショップの中でなぜそういう活動をやりだしたのかとか何をモチベーションでやっているのかとか何が楽しいんですかとかいう事例発表のようなことをしてもらおう。今の市民協働で言うと特定の方に何回も事例発表をお願いしてとかいう事があるが、その新たなメンバーが見つかるみたいなイメージももてるのかなと思っている。
- ナ だんだんとイメージが明確になってきたかなと思う。
- ニ 今までの話は運営者側の話だったと思う。ターゲット層に出ている 60 代。会社を辞める前後の方々、男性のイメージかなと思うが、先日ソーシャルキャピタルの研究会に顔をだし、堺市で男性を外に出すことに成功している事例を聞いた。本気のパン教室とか本気のコーヒー教室とか本気の木工教室とか写真撮影マイスター、そういうなんかちょっと楽し気で関心をそそるようなものと抱き合わせにするとそういう人が出てきて参加してくれるかなという風に思った。考えて必要とされているからやりましょうよっていうようなことだけじゃなくて、行ったら楽しそうやなそういう雰囲気大事じゃないかなっていう風に思う。
- ヌ そういうことですよね。それぞれの「好き」を追求する。イメージとしては、いかがか。
- ネ 今話を受けて、過去の市民説明会とかを見ているとわりと難しそうだなと思っちゃうというか。色んなワークショップとかすごい簡単なテーマでやるとしても「私行っていいんでしょうか」ってことをすごく良く聞かれるので、結構ワークショップは普通の人にとってはちょっと尻込みするとか、私なんかが行っていいのっていう感覚にならないような表現が大事で、面白い取組の事例発表とかだったら「自分もできるかな」っていうのに繋がるかもしれないという風には思った。
- ノ こちらの方は、どこら辺まで決めたらいいか。
- ハ (事務局) 今、かなりターゲット・実施内容というところでお話出てきたかなと思う。最初は、ターゲットを決めてある程度内容をもんでいった方がわかりやすいのかなと思ったが、自然と内容を考えていけばターゲットも見えてくるのかなという議論にもなっている。ワークショップをやるというところは皆さんご意見がかなりまとまったのかなと思うので、それを実際どういう風な内容でやっていくか考えていったら自然とターゲットも検討していることになるのかなという風に受け止めた。次回以降この内容というところをもう少し深堀りをしていって何をやっていくのかをご意見頂くという形で事務局としては有難いと思った。

- ヒ わかりました。まだ話合いができるという事ですね。
- フ (事務局) はい。このイベントの時期も特に何月にやらないといけないという決まりはない。皆さんのご都合で何月ぐらいは忙しいとかも実際あるかと思うので、準備時間を充分とってやっていくことももちろん大丈夫。できれば6年度のどっかではやりたいなぐらいの時期の感覚なので、夏に絶対やらなあかんというわけではない。
- ヘ 先程のニ委員の意見を踏まえて、例えば中央公民館でブースをいくつかあって真ん中にもブースを置いて話をする、ワークショップをするというようなことは出来るのか。
- ホ (事務局) 会場に食べ物を置けるのかっていうところだが、公民館のホールはすごく臭いがあるのではなかったら食べ物はいけるみたいなことが記憶に残っているので、まず建物はクリアできるのかなと思う。実際どうやって集めていくのか、どうやっていくのかは皆さんのご意見を聞きながら判断していくことになると思う。これをしたらダメとか決まりを特にはこの審議会では持つつもりはないので、予算の限りではあるが、クリアになるならどんなやり方でもチャレンジはできるのかなと思う。あとこのメンバーでできる規模のものというところかなと思う。
- マ 予算的なことについては、参加者負担という方法があると思う。あとはブースを出してくださる方がどこまで協力して頂けるか。先ほど言われたようにこういう楽しいことをやりながらそこに集まって例えばなんでこういう事をやりだしたかっていうこともお話して頂くということもあるし、逆に違ったところで集まった人たちが経験されたときにそんな話をしてそういったものを記録して残しておくという形になれば色んなアイデアが出てくるという感じがした。やるにあたって障害がなければひとつはそんなアイデアもあるかな。
- ミ (事務局) 先程も言ったとおり、同じことを決まったままやるそれもすごく大事な面もあるが、新しい事を怖がることはないと思っている。トライ&エラーでもいいと思っている。失敗するかもわからないが、とりあえずやってみようというところを皆さんと共有できていたらやりたいなと思う。市の職員の思いもつかないアイデアみたいなのも頂きたいし、それを実施できるための会場を借りるとか予算とかなんとかなんとかちょっと確保してというところは、是非したいなと思っているので、皆さんの方にも色んなご協力を頂いて市任せになるというメンバーではないとは思っているので、一緒に作りあげるところからも是非したいなと思っている。
- ム これまでの話を聞いていて思うのは、全体的に皆さんが何を指すのかなというところがやっぱりぼんやりとでもない方向性としてすごく難しいなと思う。なんとなく認識は共通していると思うが、だったらもう少しその部分を具体的にそこを目指そうという風に考えていく方が早いのかなと思う。目的、目標とか、イベントをするのなら何を持って帰ってもらいたいのか、何を徳たい

かなとか、私たちの中で皆が納得感を持って「イベントうまくいったね」と言える部分はどういうところか、自分たちがどういう風な状態だったらそこを納得できるのか、というところを話せたらいいのかなと思う。

メ (会長) おっしゃる通りだと思う。目指す方向があって実際やってみてそれでアンケートとったりして満足度を確認して、じゃあ次はあれをやってみよう、こうしてみよう、と考えていくというところをおっしゃって下さっている。むしろもう少し具体的にしぼるところか。

モ 定性的なのか定量的なのかどちらもあると思いますし、自分たちがどうなったらいいかというのを皆でどうしたらこれは成功としましょうというのかだけでも決めておきたいなど。

ヤ 今の話をしている中で、私の目標というのが先ほど事務局が言われたプレイヤー作り。どういう形でベンチマークとして評価していくかは決めないといけない。参加してもらった中で、自分たちもやろうかな、やったら面白いかなっていう気持ちを持ってもらいたい。それは1回では難しいと思うし、継続的にやっていく中において、1回目やって、2回目もやって始めて「こういうことをやりたい」という想いを持ってもらえたということがあるかもしれない。だからどこにベンチマークを置くか。目標はあくまでもプレイヤー作りだと私は思っている。

ユ (会長) ひとつプレイヤー作りという目標が、出てきたが、他にもこういう目標があればいいなというのがあれば、いっぱい出して頂ければと思う。

ヨ どちらかと言えば、地域活動に関して今まで関心が少ない方をターゲットにするイメージを持っていたけれど、70周年記念に応募された方に声かけというのでもいいが、そうすると地域活動に参加したいけれどしてきていない人に声掛けが漏れるのではないかと思うので、その辺りも考えないといけないかなと思う。

ラ 私が今行っているイベントは勤労世代、子育て世代等、皆世代が少しずつ違う。我々役員側にいる人たちと、それ以外に、子どもを預かってみたり等まちの中で色んな活動をしている人たち、こういう人たちをピックアップして一度会議を開いた。その人たちに「こういうイベントをやりたいんだけど何したい？」と言ったらまあ色んな話が出てきた。子ども達でバザーをやるとかそういう意見を集約しつつ、言いだした人に企画を任せる。予算はこちらで全部やる。という事で1回手探りの状態でイベントをやった。結果的に子どもがたくさん来て、イベントも成功したように見えた。あとの反省会で来年もやろうという事になって、こっちの主催者側は少し慌てたぐらいである。若い人たちが主体的に活動する場を提供し、自分たちで色んなこと考えて、思い通り・企画通りやれたという満足感が一番大事。イベントの実施にあたっては「そんな無計画なことではどうする？」だとか「タイムスケジュールをきちんと決めろ」とか「関係各部署にきちんと説明に来い」とか色んなこと言われた。若い人たちが主体

的にするからいいんじゃないですかと思っていたが、やっぱりそういうむくれる側もいる。そういった中でも、若い人たちが自主的にやることを目標にしたので僕らが見たこともないような若い人たち、PTAのお母さんも含めて集まって頂きました。その経験があるので、それを計画通りにきちっと収めていこうというのが今年のイメージ。先ほどもどなたか「関わっていったのではなく、やらされている」と言っていましたが、そうではなく関わってみたら面白みがでてくるという事を味わって頂くための司令塔になるのが大事。ファシリテーターは全員できるだろう。ファシリテーターはある目標に向かって対話を進めるので、こういう事をやっていけばやっぱり皆さん参加してくれるのではないかと。辻褃の合わない事を言ったが、そういう意見を持っている。

- リ (会長) 年齢層の若い人をどうやって集めたのか。
- ル PTAを通して声をかけた。お母さんと子どもが参加するので、お父さんもがついてきた。お父さんにもそういう事を経験していただく。そのために土曜日に行った。働いている人には、月から金曜日のイベントはもうタブー。一応、成功している。550人ぐらい集めている。社協さんにも市の方々も相当サポートして頂いた。場所を提供すれば、自分たちで企画したことを自分の手でやるためのものすごいパワーを持っている。
- レ (会長)「ここで好きにやってください」と。好きなようにやってくださって面白かったということ。
- ロ 本当に基本的な約束事しか決めてなくて、それで「好きなようにやってください」とした。会費もとらず、売上げたお金は全部持って帰ってねと。我々はお金に関わる事はしませんからという事でバザーも全部、売上金を持って帰ってもらっている。
- ワ (会長) 材料費とかもそれも全部お任せということか。
- ヲ好きな値段を決めて、好きなように売ってもらった。我々は消防の届けとか公園使用許可の届けとかそういう事はやった。それで皆さんのすごいパワーを目の当たりにした。
- ン (会長) そんなたくさん集められるかわからないけれど、ちょっと小規模でやってみようという可能性はあるかもしれない。
- ア その場合は、まちづくりという事を中心に考えているので、それがなんたるやという事を教えてあげないといけない。事務局とも話しているけれども、全国の自治会とまちづくりについて研究中。色んな年代があって色んなことやっている市町村。だけどまちづくりは皆のもの。どういう組織化にするかという事をもう1回洗い直ししないといけないかなと。皆さんが色々関わって宝塚も一生懸命平成の時代からコミュニティを作り、条例まで作っている。その条例がきちっと把握されていないのが今理解されている。そんな条例どこにあるねんっていう状態。理解されていないので、そういうことも含めて我々の推進会議が動かないといけないというような気がしている。

イ (会長) お時間過ぎてしまったが、今日の話をもた事務局の方でまとめて次回も議論していきたいと思う。皆さまも、今日の話を持ち帰って色々考えて頂いて、それでまた次回お話を続けていきたいと思う。

4 その他

事務局より、市制 70 周年記念 市民活動支援補助金の再周知を行った。

5 閉会

以 上